デジタル版
2025年
11月27日号
Vol. 186

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

市内中京区老舗料理旅館の建物が取り壊し！

老舗料理旅館「幾松」

市内中京区木屋町通二条下ルにある老舗料理旅館「幾松」の建物が取り壊された。2020年秋にコロナ後の経営不振から営業を止めていたが、このほど土地、建物を買い受けた大和ハウスが更地にした。この建物は2004年に登録有形文化財になっており、京都市が重要な京町家と認め、京町家保全継承条例で指定する個別指定京町家でもあった。跡地の用途は未定となっている。

＜解説＞この料理旅館「幾松」は、幕末明治維新に活躍した長州藩出身の桂小五郎（のちの木戸考允）と妻の幾松（松子）とのゆかりの場所だ。夏には鴨川の納涼床でも有名だったが、2020年のコロナパンデミックで経営が立ちいかなくなり、10月に閉店しそのままになっていた。当時、幾松が閉店したと地元では大きな関心を呼んだ。建物は江戸末期から明治初期に建てられた木造瓦葺2階建築。新選組からの襲撃に備えた抜け穴や隠れ部屋などもあり、幕末の歴史を知る貴重な建物だった。しかし、時代の波には抗えず、このたび取り壊しになった。登録有形文化財は指定文化財に比べると法的な規制は非常に緩い。再開発の制限はなく、取り壊されたら登録が抹消されるだけだ。今回の取り壊しで、京都府内では7件目の抹消となった。今後、このケースに類似した古い文化財に近い建物の取り壊しが続出する可能性がある。同じ中京区、上京区でも老舗の料理屋の廃業や営業停止が決まっている事案が数件ある。場合によっては、建物の取り壊しに至る可能性が高い。東山区の祇園地区でも、老舗有名旅館が長期間営業停止になっている。一方ではインバウンド観光客で賑わっている事業者もあれば、老舗と言われる伝統を重んじる事業者で廃業、事業停止、閉店に追い込まれるケースも頻発している。事業が立ちいかないと、ほとんどの土地、建物には抵当権が設定されているので、最終的には債権者が売却するか、競売で落とされることになる。後の利用に関しては、制限はつけられない。一方では、歴史的な価値のある建築物の保存、保全を図るべきとの意見もあるが、文化財的な遺構を保存することと、経済合理性を追求することとは、相矛盾することになりかねない。あちらが立てば、こちらが立たずで、開発と保存との間で揺れ動く。特に、街全体が世界遺産である京都市では、このようなケースが多い。開発と保存との狭間で揺れ動くという宿命を背負っているのが、京都市の特徴だろうか。

閉店した「尾張屋」

閉店中の祇園料理旅館

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.